

これ、本当に種？

社会福祉法人五倫会 中郷保育園（青森県黒石市）

[5 歳児]

2 2 年度の栽培活動

H 2 2 年度の栽培活動に向け、2 1 年 3 月に鉢に種まきをし、春、畑の雪が解けてから苗を植え替えて育てる大根と、種から植える大根の両方を栽培した。すると、苗から植えた大根の方は葉の間から茎がどんどん伸び、花が咲く。これまでも大根は植えてきたが、花が咲いたのを見たのは子どもたちにとって、初めての経験であった。

「えー？これって大根の花なの？」「大根の花って白いんだ！」と驚く子どもたち。

「可愛い、飾ってお絵描きしたいな」ということになり、一部を園に持ち帰る。

花を飾ると、子どもたちが絵を見たり描いたりしていた。

そこで、「花を今まで見たことないね。今までの大根と違うのかな？」と保育者が言うと、「そういえば、そうだね、何でだろう？」と疑問が生まれ、図鑑を調べることになった。

園にある野菜の本に大根のことは詳しく書かれていなかったので、5 歳児が図書館に行き調べた。

言葉が少し難しいところは、保育者が簡単に説明しながら読み進めた。

「分かった。（大根が）寒いって思ったら花咲くんだね」「お花咲いたら種取れるんだね」「（鉢に）植えるの早すぎたんじゃない？」と、分かってきたことや新しく考えたことなど話す。

花の咲かない大根は育っていく。花の咲いた大根はやはり大きくは育たないが、花の後に実ができ、種となった。収穫してみると 2 mm くらいしかない小さな粒の種が出てきた。

「これ、本当に種？」

「これ植えたら大きくなるのかな？」と種からいろいろな疑問が生まれた。



そこで、4 歳児に引き継ぐ

2 3 年度の栽培活動

H 2 3 年度、進級した 5 歳児が畑に植えた大根は、市販の種の外、昨年度の栽培で疑問が残った「種」の 2 種類。

園の畑生まれの大根の種は、先輩から譲られて大切にしていた。その様子は確かに種だったが粒も小さく、「本当に育つか？」と思うような種だった。子どもたちは半信半疑で植えてみた。

ところが、植えてみると本当に葉が伸び大根も見事に実った。

大根が実った様子を見て、

A 子：「やっぱり、花から種って採れるんだ」

B 子：「でも、今年お花咲かなかったよ？種採れないじゃん」

C 男：「前の年長さんは、『3月に植えたら寒くてお花咲いた』って言ってたよ」

D 男：「今年は、暖かくなってからやったから、花が咲かないんじゃない？」

E 男：「植える時が違えば、できるもの違うんだね」

こうして、できた大根からいろいろな考えをもち、意見を口にしていた子どもたちだった。



<考察> 前年度プレゼントされた種を育てたことで、作物が花を咲かせ、実り、種を作り、またその種が実らせるという“生命の連鎖”を感じた子どもたちは、興味を高め、植物の生態の特徴や変化にも気付いた。3月の寒空の下に植えた大根と、5月の温かな空の下に植えた大根の生長の違いに気付いたことで、作物の成長に適した気温があることを知った。生活には“時期”が重要な意味をもつことがある。目的に応じてその適正時期が変化することを、種と大根の実に教えてもらうことができた。

みどころ

例年大根を育てている園の子どもたちなので「大根に花が咲いた！？」ということに驚き、疑問や不思議を感じています。その後も、花が枯れて実になり種ができるまでの様子を、興味深く観察していたことが推察されます。種と共に「これ、本当に種？」という疑問も引き継いだ子どもたちは、市販の種と引き継いだ種を植えたことで、種の違いから疑問が一層高まっています。だからこそ、その後の体験により豊かな気付きをし「科学する心」が育まれることに結び付きました。